

# 杉戸町今昔往来伝

古きをたずねて  
杉戸を再発見

第78回

## 千住馬車鉄道①

明治三十二年（一八九九）、千住・久喜間に東武鉄道が敷設される以前の話。それとは同じようなコースで極めて短期間ながら、「千住馬車鉄道」というものが存在していたことを御存知でしょうか。

明治三十二年（一八九九）六月、北足立郡草加町（現草加市）の高橋莊右衛門、北葛飾郡八輪野崎村（現久喜・幸手両市の一部）の渡辺宗三郎等によって、「馬車鉄道布設願」が埼玉県知事・東京府知事宛に提出されました。

「陸羽街道ハ往時旅客物資ノ往復頻繁ナル東海道上山道ト伯仲シ、本邦ノ三街道ト称セシモ、日本鉄道会社陸羽線ノ開通スルニ及ンデ其面目ヲ一変シ、沿道ノ景況亦昔日ノ如クナラス（中略）東京府下武蔵国南足立郡千住中細ヨリ埼玉県下同国北葛飾郡幸手町マテ、国道ニ沿ヘ該鉄道ヲ布設シ運輸ノ業ヲ相営ミ度（後略）」

この布設願をみると、千住馬車鉄道というのは、東京府下南足立郡千住町から、陸羽街道（旧日光・奥州道中）に沿って埼玉県下北

葛飾郡幸手町までの間を敷設する計画だったことがわかります。

また、すでにこの時代に日本鉄道会社陸羽線（奥州線とも。現在のＪＲ宇都宮線）が開通しており、その影響を諸に受けての「馬車鉄道布設願」だったこともわかります。

さらに興味深いことは、この千住馬車鉄道会社の発起人は、前述の高橋莊右衛門や渡辺宗三郎をはじめ、全部で三十一名いましたが、そのうち十四名が杉戸町や高野村などの北葛飾郡在住者だったことです。極論すれば、千住馬車鉄道の推進主体は、北葛飾郡地域住民にあったのです。（つづく）



▲（千住）馬車鉄道布設願

（社会教育課 町史・文化財担当編）

## 65歳以上の高齢者の方へ 高齢者支援商品券を交付しました

### 問合せ

高齢介護課 高齢者福祉担当 内線317・318

新型コロナウイルス感染症の収束見通しが立たないことにより、外出自粛など不自由な生活を長期間余儀なくされている高齢者の方が生活不活発になるなど健康への影響が懸念されています。

そこで、外出や社会参加のきっかけとしてもらい、さらに、厳しい経営状況にある町内企業を応援するために、**65歳以上の高齢者の方に対して、10月に高齢者支援商品券（「地元応援 すぎとプレミアム付き商品券」3,000円分）を交付しました。**

この高齢者支援商品券の有効期限は**「令和2年12月31日まで」**となっていますので、お早めにご利用ください。

【支給対象者】 ・昭和31年4月1日以前に生まれた方（令和2年度中に65歳以上になる方）  
・令和2年9月1日現在、杉戸町内に在住の方

【配布物】 高齢者支援商品券 地元応援すぎとプレミアム付き商品券（中小小売店専用券）と同様のもの

【支給金額】 3,000円

【配布方法】 簡易書留によりご自宅に送付（申請は不要です。）

【利用可能店】 地元応援すぎとプレミアム付き商品券加盟店



（見本）



UD FONT  
by MORISAWA

ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。

杉戸町  
ホームページ



メール配信  
すぎめー



広報スマホ版  
マチイロ

